

ひとつ 前へ

輪 島 市 立 東 陽 中 学 校
平成 28 年 9 月 30 日 発行その 1

ペンだこができるまで

体育祭や市内新人大会が終わり、勉強にじっくり取り組むことができる秋となっています。先日 27 日には英語力コンテストが行われ、結果は 90 点以上の合格者が全体の 74% でした。このコンテストの準備のために、大会終了の翌日から、放課後を利用して毎日プレテストを合格するまで＝「ペンだこができるまで」くり返し単語練習をしてきました。今の世の中は合理化されていますが、漢字や単語などの基本事項は瞬時に覚えることはできません。何度も何度も繰り返し書いて練習する、忘れていたものがないかチェックをして、忘れがちなものは見やすいよう書きだすなど、時間のかかる学習も必要になります。確かに面倒な取組かもしれませんが、しかしながら、基本を身につけるには反復練習は欠かせません。本校では昨年度より生徒の「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」を目指し能動的な教育活動（＝アクティブ・ラーニング）に取り組んでいます。しかし、基礎知識がなければ授業での学び合いで学習を深めたり、知識を活用したりすることはできません。労を惜しまず地道に毎日練習して頭に定着させていく習慣は昔も今も変わることのない大切なものです。これからの社会はグローバル化され英語力はさらに必要なものになってきます。将来自分の能力を発揮する上で英語でコミュニケーションをとることも必要になりますが、その際、上手く伝えることができれば、勉強しておいて良かったと思えるでしょう。また、様々な国の人達と意見を交わす楽しみも生まれていきます。身につけておかなければならない知識をたたき込んでおくことは自分の夢や希望を広げることにつながるのです。テストがあるから勉強するという考えは学習行為そのものを辛いものにしてしまいます。しかし、自分の理想や夢の実現のために勉強する、英語科であれば、英語で話せるようになったらカッコいいだろうなど自分の活躍をイメージしながら勉強できれば、やりがいも感じてくるでしょう。

自分が将来どうしているかははっきりわからないと思いますが、だからこそ広く知識を蓄えておいて、いざという時に引き出せるようにしておきたいものです。

(学校長 西 又 浩 二)

全国学力学習状況調査・県基礎学力調査（3年生実施）の結果について

夏休み中に、4 月に行われた全国学力学習状況調査（国語 A・B、数学 A・B、質問紙調査）と県基礎学力調査（社会、理科、英語）の結果が正式に発表されましたので、お知らせします。

	全国学力学習状況調査				県基礎学力調査		
	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理 科	社 会	英 語
東陽中	83.8	77.0	62.1	49.9	45.0	68.1	55.0
県平均	78.1	70.8	65.6	48.8	47.1	64.3	56.2
比較	+5.7	+6.2	-3.5	+1.1	-2.1	+3.8	-1.2

※数値は正答率（%）を表す



《学力調査の結果から各教科に共通する傾向は…》

- 授業中やグループワークで、生徒同士で教え合った事象、リーダーやサブリーダーの役割を果たす生徒を中心に学習した内容の通過率は良好
- 重要語句テストで扱った用語や授業で生徒同士が練り上げ（＝ブラッシュアップ）に取り組んだ内容の通過率は高い
- 条件が複雑、問題の形式が長い、反復が足りないという理由から通過率が低い
- 正確さを求められる内容についての通過率が下がる

【対策として】

- 授業やグループワークによる対話的な学びによる深め合う活動を増やす
- 穴埋めや説明など、生徒が問題を作って教え合う活動をスタディタイムや朝学習で実施する
- 重要語句や基本問題については、教科課題で確実に定着させる
- その日の学習内容は授業時間後半に復習テストや振り返りを書くことを徹底する
- 補充学習や土曜授業等で、復習機会を増やす

ことで強化を図ります

この全国学力学習状況調査と県基礎学力調査は例年 3 年生の 4 月に実施されます。現在 3 年生が入学した平成 26 年度は、本校では教育活動全体を通して生徒の自己肯定感を高めることから、意欲的に学習に向かう生徒の育成に取り組みました。また、27 年度からは能動的な教育活動をすすめる中で、生徒一人一人が将来をたくましく生きぬく資質や能力を身につけることを目指してきました。右のグラフは 3 年生が小 6 の時と現在との全国学力調査の比較です。国語も数学（算数）も活用力を測る B 問題で上昇していることが分かります。

これについては、上記した対策とともに自己肯定感の高揚や能動的な学習を進めるための様々な活動を取り入れた効果と考えます。特に対策の 1 つとして「グループワーク」（＝学び合い）を取り入れましたが、この効果については、中・下位層の学習意欲を高め、成績の向上につながっていることが、グループワーク導入前と後を比較したグラフの分布の変化からも読み取ることができます。

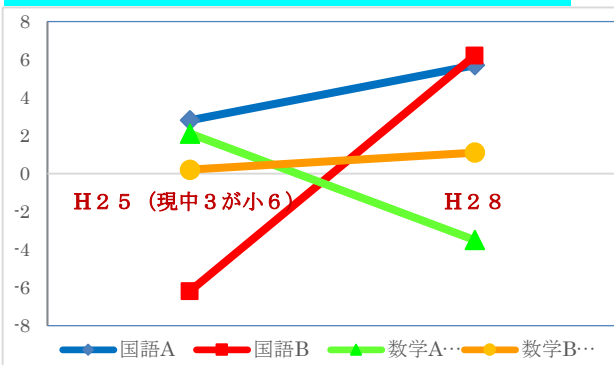
【全国学力学習状況調査（質問紙調査比較）】

質問項目	27 年度	28 年度
1、2 年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	48.1	88.9
400 字詰め原稿用紙 2～3 枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか	18.5	3.7
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	14.8	40.7
学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことはありますか	51.9	85.2
学校に行くのは楽しいと思いますか	44.4	81.5
自分には、よいところがあると思いますか	29.6	51.9
将来の夢や目標を持っていますか	51.9	66.7

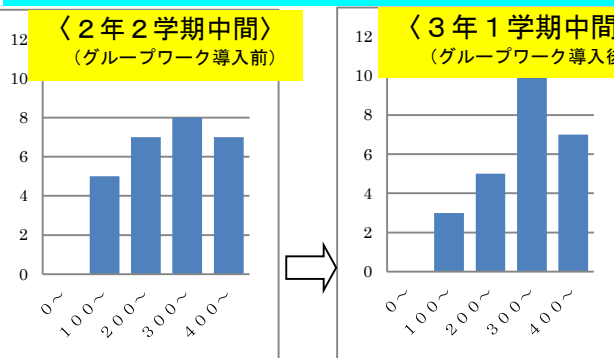
また、質問紙調査の結果からは、意識の面でも生徒が話し合い、学び合いながらすすめるグループワークの効果の大きさを感じていることが分かります。

生徒同士が解決に向け話し合いを重ねてきたことは、良好な人間関係の構築や自己肯定感の高揚を更にすすめるとともに、「わからないこと」に対しても、解決に向け、建設的にかかわろうとする態度を育てていることも校内独自のアンケート結果から読み取ることができます。一方、今後さらに生徒の話し合いを学習に生かすためには、生徒が事前に準備をすることがこれまで以上に必要になります。市の学習状況アンケート結果からも分かるように、東陽中の課題は予習であり、10 月以降、「予習」に重点的に取り組んでいきます。

【全国学力調査結果の比較（県平均との差）】



【定期テストにおける人数分布の推移（現 3 年）】



「授業で習得した知識やスキルを学校生活の場で活用する。それを繰り返すことが、求められる資質・能力の育成につながる。」

授業だけ、行事だけと別々に捉えるのではなく、学校生活全体を通じて一人一人の力を伸ばしていくことを目指して取り組んできました。授業や学級活動では、グループでの協働を大切にし、「団体戦」という意識で活動をすすめています。

質問項目	A	B
授業での「学び合い」（ペアや班活動など）で意見や技能が深まり、磨き上げられている	68.1	29.0
わからない人におしえることができる	21.7	46.4
わからないことや疑問に思うことを人に尋ねることができる	62.3	27.5
グループでの学び合いに効果を感じる	62.3	27.5
自己の頑張りや変容を振り返ることができている	36.2	46.4

加えて、生徒会活動や行事など特別活動のあり方を再考することで、教育活動全体が一本の糸でつながっているのが今の状態です。

【輪島市 学習状況アンケート (H28.9)】

質問項目	A	B
学校の授業の復習をしている	28.6	64.3
学校の授業の予習をしている	0	32.1

自分たちで作り上げる喜び…“体育祭大成功”！！



10日（土）、それまでの“残暑”が嘘のように当日は爽やかな“秋晴れ”に恵まれ、生徒は競技や進行、応援と最高のパフォーマンスを発揮してくれました。工夫を凝らした入場行進やメッセージを込めた団旗、チームの闘志をぶつけ合った熱い戦い、力を合わせて演技する応援合戦、仲間を懸命に応援する姿…etc。一瞬に見せる生徒の表情はどれも輝いて見えました。夏休み前から準備に取りかかりリーダーとしての役割を果たそうとした3年生の頑張り、そしてそれに、応えようとする1・2年生。閉会式に並ぶ生徒一人一人から、準備や練習の苦勞を乗り越えて行事を成功させることができた充実感や満足感に溢れていました。朝早くから本校グラウンドに足を運びたくさんのご声援を送って頂いた保護者の皆様、地域の皆様、ご来賓の方々に心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



入場行進や応援合戦のパフォーマンス、円陣、胴上げなどなど、小学校では見られない、中学校ならではのチームの絆が見れて、とても楽しい体育祭になりました。
〔1年生〕

初めての体育祭で、台風の日や応援合戦など、協力しながら楽しめました。応援練習で3年生に教えてもらった踊りを本番で楽しく踊れたので良かったです。3年生が作った団旗が青団も赤団も迫力があり、その旗の意味もすごいと思いました。
〔1年生〕

3年生が体育祭を盛り上げるため、いろいろな工夫をし、努力をしていたので、自分が3年生になったら、今の3年生のようにになりたい。青団も赤団も団結し、より絆や思い出を築けていたので良かった。
〔1年生〕



・総合的には赤団が優勝したけど、優勝よりも違う大切なものを考えることができたと思います。例えば「入場行進」では最初はみんな足とか縦・横のラインがばらばらだったけど、団長や入場行進の係だった3年生が団を盛り上げて引っ張っていったから本番はとても上手くいきました。「応援合戦」では覚えるペースがみんなばらばらで教えてくれる3年生も大変だったと思うけど、本番ではみんな笑顔で完璧に踊っていたんじゃないかなと思います。これも細かいところまで教えて、「分からない所があったら言ってね」とやさしく言っていた応援合戦のダンス担当3年生が団を引っ張っていったからだと思います。私はこの体育祭を通して、3年生のすごさを感じました。クラスだけでなく全校をまとめて引っ張っていく姿を見て、来年、私たちがこんなことをしなければいけないと言うことを改めて感じました。
〔岡田 亜樹〕

僕は1年生の時の体育祭は係も競技も2・3年生について行っただけなので、今年はうまくできるかなあと思っていたけど、係や競技は順序よくすすんで上手くいったし、何よりも楽しかったので、最高の体育祭になりました。結果的には負けてしまいましたが、3年生がリーダーとなって引っ張ってくれてとてもよい思い出になりました。来年は3年生になるので、今の3年生を手本にして、もっとよい体育祭を作り上げたいなあと思いました。
〔出村 康貴〕



私は体育祭で、仲間の大切さや仲間と一緒に戦うことをまなびました。入場行進や応援合戦の時、私は派手なことが苦手でダンスも不得意でした。逆に派手なことが好きでダンスが得意な人もいました。だから私は最初、「こういうのは好きな人に任せてボーっとやっていよう。」と思って練習をしていました。ですが、ある日、3年生がこんなことを言っていました。「みんなが目立たなければいけない！」と。私はそれでやっと気づきました。「一人でも手を抜いていると団がまとまらないし、私の他にもこういうのが苦手な人っている。でもその人は頑張っているじゃん」と。私はこの時から分からない所や苦手なところをいろんな人達に聞き、必死に覚えしました。そして本番、私は今までで一番うまく楽しくできました。その時は本当に嬉しかったです。来年は私たちが体育祭を盛り上げる番になります。もしも後輩に私のような思いをしている人がいたら、私はその人に仲間の良さや団の良さを分かってもらえるように教え、体育祭を今年よりも盛り上げようと思います。
〔南 さくら〕

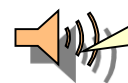
僕は今年の体育祭は成功したと思います。夏休みから始めていた体育祭プロジェクトでの僕の仕事は広報ポスターでした。ポスターは体育祭本番で得点になるわけではないけど、自分なりに一生懸命取り組むことができました。背景の色塗りを、休んでいる人の分もみんなで塗ったりなど協力することができました。団の活動ではスタントがなかなか成功しなかったけど、何回も工夫しながら練習していくと、だんだん成功することが多くなりました。それでも本番で成功するか不安でしたが、しっかりと成功させることができたので、練習した甲斐があったなと思いました。入場行進の練習は二階の廊下まで使って練習しました。振りを変えることがあったりしたけど、上手くいきました。競技練習では青団は負けと引き分けばかりだったけど、本番ではけっこう勝てたので驚きました。これも一生懸命に取り組んだおかげなのかなと思いました。最終的には負けてしまったけど、この体育祭で、改めて、上級生として下級生をまとめることの大切さと大変さを知ることができました。
〔中口 貴裕〕

この体育祭を通して、まず私が大きく変わったことが一つあります。それは積極的に自分の意見を述べるようになったことです。そして、何よりも私が嬉しかったのは、みんな心一つになったことです。選抜リレーで私が一走目ですごい差をつけられたとき、残りのみんなが必死にバトンをつないで追い越してくれて、改めてころろ一つになったなと実感しました。走っていた人だけでなく、テントの方からも一生懸命応援してくれていて、とても感動しました。私はこの体育祭を生徒会長という立場で参加しましたが、思ったことは、さらに東陽の絆が深まったということ。そして何よりもみんな心一つになったということです。達成感に満ちあふれ、今までに無い最高の思い出となりました。
〔藤平なつき〕

体育祭後の解団式では「負けたけど楽しかったです。」という人が多かったです。これを聞いて本当に嬉しかったです。これは本当に嬉しかったです。これは3年生全員が、「今年はいいものにしよう」とか「楽しませよう」とか思っていたからだと思います。私自身、本当に楽しかったなと思っています。3年間の中で1番だったし、すごくいい思い出になりました。協力することや楽しむことって大切なことだと再確認できました。
〔三尾 彩子〕

自分は勉強でもスポーツでも、自分ができなさそうなものがあるとすぐに逃げてしまいます。でも、この体育祭の活動を通して、自分ができるものであったとしても、それに対して決してあきらめることなく、努力し、挑戦していこうと思っています。「あきらめよう」としない心」を持とうと思います。
〔宮崎亜伊応〕

応援合戦では夏休みのころは1年生も2年生も「ゼロからのスタート」だったけど、日を重ねるごとに、みんな上手くなり、3年生がいなくても練習したりなど、一人一人の体育祭に向けた思いが伝わってきました。そして、当日では、一人一人がしっかりと声を出し、一生懸命踊ったり跳ねたりアピールしたりして、みんなの力を出し尽くしたと思います。体育祭が終わってみると達成感があり、とても充実した1日になったと思います。学年をこえて、みんなで協力し、力を合わせて一つのことをやり遂げることの大切さや、喜びを改めて感じる事ができた体育祭になりました。次の文化祭に向けて、体育祭の経験を生かしながら、みんなと力を合わせて取り組んでいきたいです。
〔谷内 和希〕



学問の秋！そして芸術の秋！

夏休み中の課題として、たくさんの審査会やコンクールの応募作品が提出されましたが、9月後半から、少しずつ、その結果が届けられています。これからの“表彰ラッシュ”を期待しています。

【輪島市科学作品審査会】

『最優秀賞』 山本 日和里（2年）

速さを極めたコンデンサーカー

【全国切り絵作品展】

『入選』

大宮 正宗（3年） 自画像

神谷 泰輝（3年） もう一人の自分

堤 楓花（3年） 自画像

皆戸 裕夏（3年） 自画像

【J A「くらしの絵」コンクール】

『銅賞』

登岸 舞乙（1年） 夏の千枚田

